

轉瞬に治は頃日多く

は竟に總督政治の失敗と同意義なり  
何と云へば強國民の利害を明知し發展  
得ずればと權民地の施政は、終つ  
の根本を誤り没却せるものなればなり  
而も韓民に親如外人と怖れたる藩公の  
統督政治は韓民の接近同化と外國人  
好感とを顧み得んも、今の總督政治が  
武斷的に憲兵と警察とを弄すの結果  
は、終にうの治下に立てる前三者、益

▲居住 證明所持者は直ちに送還す  
年内に商工務期より居住證明を要す  
と云ふに在り米人同故に執擧ぐるか  
▲密入 十六日章天附近にて支那兵十  
名餘強盜竊案二名に暴行を加へ所帯  
▲緝と 審以牌牌を舉げて擲し暴兵二

因有限三嶋  
料調劑元三嶋  
三嶋

家の大患にはあらずや  
 用能の如くは、印を  
 じつと利用し奉りて、  
 尊嚴を授くるのみ明  
 出でる言論を著す内  
 敵なく言論を著す内  
 名は支那總督局分遣に送ふたれば  
 ▲我兵 は分署に赴き電報伝達を迫り  
 ▲懸せ 至らば我軍官軍士等はは  
 ▲分署 にすら強硬談判の末奪はれた  
 る書刺を取返し進行支那兵一名引致。  
 ▲取調 中なりと總督府行政事件に次で

に之を登山、擧げてせよ。し。若  
し鮮人をし。斯。意見を以て總督の見  
地を出た。と相せしめんか。當  
るの最盛。挑擧するのみならず、正に  
陛下統治の下に入りと鮮人の親近  
化と育するや大なり。斯る點に於て今  
の朝鮮に政治を行ふものが、保護國時  
代の統監政治と我領土たる今日の總督  
政治との上に隔然たる差別を念とする  
の必要なるを想ふ。前には時に武斷を  
弄し、憲兵警備本位を要し、教育制限

參列員を招待晚餐會開催參列員満足  
○臺灣 新竹討伐隊は砲兵陣地占領の  
第十五、六千尺の高地に前進を開始。  
○喜入 猛烈に之に抵抗し我兵應戰し  
連夜隘勇數名の負傷も苦戰と稱ひ。

○朝鮮 鐵道は大連に幸し、防疫會陳  
支隊兵此舉を行なす間政府責任不轉



主義を可とならんと。今や此の民  
人は協力して平和の道に勉め半島の開  
發に任ぜざるべからず。隨て鐵骨の歐  
中、東洋兩者別なく、今日の半  
島に於て日人將して野人歟、是の兩  
民俱に扶け共に進むものに非ずや、  
我寺内總督は何を苦んでか亦武蔵政策

召使れ初  
第四十九回  
愚法師

た力、總兵衛、陳三人を鼎座に出せ、  
此の一室に談合の席は開かれぬ。閑閑  
は云ふまでもなく、陳三公の事なりき  
大進は此に由りて、一代出世の緒口

を弄し、憲兵政治を取てせんとする今  
外事 一 束

未開政府は、外國に向ひ國境に  
蓋つた。然れども米人に就き之の責任  
を認めし米人の通知をなし又叛徒  
を捕へし米人の通知をなし此の通知は  
あらざりき、爲し得べくば兩親の許可  
を得るのみならず、徳右衛門の恐しき  
横暴を免れて、女の操を全うすること  
を得べきなり。己に主人として事す  
ることから、彼女は親の許容の不義と見  
なれて、一生上願ふは智恵なき者に於てはけし  
むべし。

の。人。  
の。未  
が先きに二五の軍隊を調遣に  
得て、立派に婚儀を取結ぶにあつた  
は連中は町人に身を任すがさのみ望みの  
でもあらざりや。兄佐十郎の品行格  
御耳様王子は埃國皇帝

[illegible]

一家の大黒柱になりて、家名を繼ぐべし時節到來あるかも知れじとは、彼女が物心付きてより、徳作の心に忠告を施すなり、されば彼女に偶然の命とあるは旦那にもれ斯く申すでは當はぬは「こゝろや知れど」輩ぞの一生涯のた

A black and white woodblock-style illustration of a man in traditional Chinese attire, kneeling and looking out a window. He is wearing a long robe with a patterned collar and a decorative sash. The window shows a view of a landscape with trees and a building.

以上、婚姻と相続する心はなけれど、  
成るべくは獨立して、人の主に學べた  
かりき、いふに當る時は何時にて、  
を乞ふて、正木の家名を相続し得べき  
事、あなただ様が一存で取極めなれど、  
のを知れてあります、ではねえへな  
き取うその上で御相談、改め私へ御  
事わらずでござりませうかな。

身上にてありたりき  
 故に教女は此の理由をもて母に説き  
 併せて徳兵衛の袖に縋りき  
 「私は國尾庵を御に從ひて、一人の  
 女にやうたひのごさります」  
 「おやがの、汝のやうな不潔者ぞ、泣  
 かしい奥勤めがならうかの、れ父縁に  
 「れ違出仕の偏どなる事、私は御機  
 上げて遣りたい、旦那どのもきき御  
 意、御納付もあらうが、うれまでは  
 尼どの御返答、御機嫌下さることぞ  
 さいかの」  
 「ならぬことござりませぬ、國尾庵  
 の御所望、なれ共今日は召付け、

申上げたりや、定めし御敷びあらう  
木に着て火を掬ひことなるの上は  
「さうば、おなたからよくな願ひを  
下さりませぬかし」



サッポロ  
ビール



見殺しに、るぢやわの、兄の佐十郎町會所へ引かるしを、知ちぬ國で救ふては遣らぬぢやわの」

「や」徳兵衛は耳を放て、彼の聲件ではなし」

「れ道な道」徳右衛門は續けて云ひ「不便さうに佐十郎は引かれる、

自身の手によつて町會所へ渡される  
 これでも心強う云ふやわぬ  
 「もし」と次には力が聞き答めて  
 誰かは存じませぬ、佐十郎の味方なされ  
 てゐるが、你がこれへ参り居るでござ  
 りますか  
 れ置は苦しさ辛さを袖に噛みては  
 誤、構へてり

**廣 告**

**保險金受領廣告**

一、金壹千圓也

者ハ亡阿半殿明治  
四十三年八月二十二日  
命保險株式會社太平生  
死共済會に加入し、本年二月廿四日  
死去に付、前記保險金は轉社  
代理店八田利三郎氏  
に證明し依り廣告候に  
明辛四十四年四月十七日

仁川

轉居  
長谷川町一丁目  
電話六九七番  
辯護士皆川廣濟  
阿部イシ

不肖雖今國三先御流家元より朝鮮  
 支部長 拜命に付爲披露来る四  
 月廿三廿四日の兩日  
 南山本願寺に於て生花  
 大會開催す

舊姓朝鮮支那長  
金冷齋 橫井松甫

耳鼻咽喉頭  
氣管氣管枝病  
專門  
診療時間  
午飯自九時至十二時  
午飯自二時至六時  
日曜祭日午後二時迄  
石田耳鼻咽喉科  
石田  
東京醫學大學耳鼻咽喉科教授職員  
前民團立海城病院耳鼻咽喉科部長

眼科  
江頭眼科醫院  
醫學博士 江頭 富雄  
日午後  
二時迄  
營業科目  
板材木 製材 竹類 赤煉瓦 耐火煉瓦 天

井原 龜造 作材 豐表 扣 越七島表  
右灰 セメント 燐寸 鋸  
廣島油明株式會社  
廣島鐵製造株式會社  
日本鋪塗料株式會社  
永登浦煉瓦工場特約販賣  
京城南大門 外右町材料通 電話千一七二  
堀內商會 京城支店

文房具 和洋紙 測量器械  
並買次營業申候  
東京本町一丁目郵便局前  
電話 六四八八  
振替 郵部 一五四四

朝鮮總督府醫務總長 明石元二郎序文  
朝鮮總督府醫務官 中野有光校閱  
朝鮮總督府醫務總監部員 田口春二郎著

●●最新版發賣●●

最新朝鮮一環

[illegible]

朝鮮雜誌社編纂 (訂正增補政版)

發行  
韓書房  
萬氏金十號











京城本町三丁目 大塚野村七代理店 田中友吉商店

潮州行	海科丸	廿一日、廿三日、廿五日、廿七日、廿九日
安泰丸	廿二日、廿四日、廿五日、廿六日、廿八日、廿九日	
德祥富里浦電車行	廿七日、廿九日	
三省丸	廿一日、廿三日、廿五	
千運丸	廿四日	
仁濟李財	廿五日	